

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名	長野 怜香
所属 学年	現代システム科学域 環境システム学類 3年
留学先	CY セルジー・パリ大学
留学期間	2022/9/1~2023/1/31

留学レポート Study Abroad Report

【留学の経緯】

留学は幼い頃からの私の夢でした。母が何度もヨーロッパ旅行に連れて行ってくれたことがきっかけで、海外への興味が強くあり、日本の大学の授業料のみを支払う経済的負担が軽い点や休学せずに留学ができる点から交換留学を選択しました。渡航先は、ヨーロッパが好きなことと国連言語であることから、第二言語として大学でフランス語を学んでいたため、フランスに決めました。フランスは家族旅行で2度訪れたことがあり、今回で3回目だったので、外国に行くことへの恐怖はありませんでした。しかし一人で生活するのは人生初で、さらにそれが異国の地であることや、現地で友だちができるかなど未知のことも多く、期待と不安がたくさんありました。

【大学や生活】

フランスの大学では、日本語を学ぶフランス人とともに、日仏の翻訳の授業や英国の文化や企業に関する英語の授業を受講していました。初回からフランス人がたくさん話しかけてくれたので、すぐに仲良くなることができました。オープンで誰にでもフレンドリーなフランス人の気質のおかげです。フランス人の友だちたちは授業のわからないところを教えてくれたり一緒に昼ご飯を食べたり、休日はパリに出かけたり、留学中に迎えた私の誕生日もお祝いしてくれ、たくさんの思い出ができました。一緒に現地の授業を受けて、彼らの英語力の高さを知りました。「英語は外国語」という位置づけは日本もフランスも変わりませんが、日本の大学生の平均よりもフランスの大学生の英語レベルの方がはるかに高いと感じました。また、同じ学部のフランス人の先生や学生は日本に興味がある人ばかりだったため、彼らがアニメや漫画、日本に旅行したときのことなどをとても楽しそうに話してくれるのを聞いて、日本人でよかったと改めて思うことができました。私は英語もフランス語も彼らより拙く、会話の幅を広げることができずに悔しい思いもしましたが、それでもこんなにも仲良くしてくれる友だちができて、友情は肌の色や言語の壁なんて全く関係ないのだと心の底から実感しました。



1年生のみんなと集合写真



友だちと折り紙



放課後大学の近くにできた移動式遊園地へ



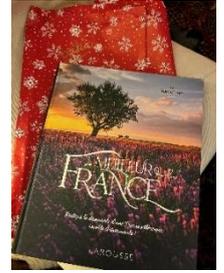
また、渡航前ホームステイを探していた時に会ったフランス人一家がとても親切にしてくれ、私は別の家でホームステイをしていたので、何度も彼らの家の晩ご飯に招待してくれました。特にノエルと一緒に過ごしたことが私の一番の思い出です。12月24日の夜は彼らと一緒に教会でミサに参加しました。その後家で晩ご飯を振る舞ってもらい、ケーキを食べ、マザーがクリスマスプレゼントをくれました。フランスのクリスマスと一緒に体験できてとても嬉しかったです。フランスをはじめ、ヨーロッパでは駅やレストラン、買い物時などに冷たく対応されることやアジア人に向けられた厳しい態度に遭遇することは珍しくはありません。大学の友だちやこの一家の優しさがあたりまえではないことを身に染みて知っていたので、彼らとの出会いは私にとって今回の留学で一番の宝物です。



フランス人家族



ノエルの食事や手作りケーキ



クリスマスプレゼント
フランスの景色の写真

【奨学金】

留学期間中、私はフランス政府管轄のヴァルドワーズ県奨学金を受給していました。主な支援内容は往復の航空券と毎月の給付金です。様々なイベントが定期的で開催され、世界中の同じ奨学生と関わることができました。特に、ヴァルドワーズ県の奨学金担当者が、ヴァルドワーズ県を巡る旅行を計画してくれたり、U23のフランス代表と日本代表のフットサル親善試合に招待してくれたり、日本人奨学生と交流する機会を頻繁に作ってくれました。フットサルの試合では、一緒に見に行った私たち3人のみが日本人だったので、周り全員がフランス代表を応援している完全アウェーの中、日本選手が点を入れた時は3人で立ち上がって盛り上げました。最後に日本代表選手たちが一緒に写真を撮ってくれたことが思い出です。また、奨学生の活動として、大学と同じ県の中学校にお邪魔し、日本に関するプレゼンをしました。その後は中学生たちと一緒に手作りのクレープを食べて、折り紙や日本語の書き方を教えました。現地の中学生と関われる機会はなかなか無いので、本当に貴重な経験ができました。



レンタサイクルで街巡り



日本代表と写真



中学校訪問



【ホームステイ】

大学からバスで30分の場所でホームステイをしていました。ホストマザーとその子ども、他の学生2人と一緒に生活をしていました。ホームステイ先を調べ始めるのが遅かったため、渡航日の数日前に決まりましたが、入居日当日から問題なく住むことができました。ホストファミリーとは、顔を合わせれば挨拶や会話を交わし、また門限もなく彼らから必要以上に干渉はされず、お互い良い関係でした。しかし、初めは聞かされていなかった共有部分の週ごとの掃除当番制が急に始まったり、ホストファミリーの幼い子どもを起こしてはいけないからという理由で21時以降はトイレを流してはいけず使えませんでした。また、一緒に生活をするうえで、バスルームやキッチンを使い方など、彼らとの清潔観念の違いに頭を悩ませました。ホームステイは現地の人の文化や価値観を知ることができ、ホストファミリーと仲良くなれば語学の上達にもなるため、メリットもデメリットもあります。私はホームステイをすることも留学と同様に夢の一つだったので、大変な場面もありましたが、ホームステイを選択してよかったと思っています。

【フランスについて】

フランスは美食の国と言われるだけあり、どこへ行っても食事は本当においしかったです。レストランのレベルが高いため、まずいお店を見つける方が難しいです。私はラクレットやガレットを気に入って、よくレストランに食べに行き、お気に入りの店もできました。パリは観光スポットだらけで、たとえ有名な場所ではなくても街を歩いているだけで夢のような気分になります。パリの値段は安くはありませんが出てくる量も多いため、価格も高すぎるとは感じません。レストランではパンと水は無料で出てきます。水が無料なのは近隣でイギリス圏とフランスだけだと思います。質の高いチーズやバター、パン、ヨーグルトが日本の3分の1の値段で手に入ります。たとえ日本食が恋しくなっても日本食レストランはたくさんありますし、アジアンスーパーもあるので、米や調味料を調達することは難しくありません。食事は留学中のストレスにもなりやすい要因ですが、その心配がパリでは少ないと思います。私はフランスの食事がとても合っていたので、逆に帰国してラクレットがかなり恋しいです。今すぐにでもパリに帰りたくです。



ガレット



ラクレット



日本ラーメン



とんかつ

また、これほど芸術に触れた 5 か月間は二度とないと思います。本当にたくさんの美術館や博物館がパリをはじめフランス中にあり、有名な画家たちの思い出の地や絵のモデルとなった場所も数多く存在します。パリ以外にも魅力的な街がたくさんあり、芸術家のゆかりの地とされる場所はとても素敵で、絵画を見るだけが芸術に触れることではないと感じました。ただ、よく言われるように、パリは道や電車が汚く治安も良いとは言えません。しかし、パリはやっぱり世界中の人が憧れる街だと思います。

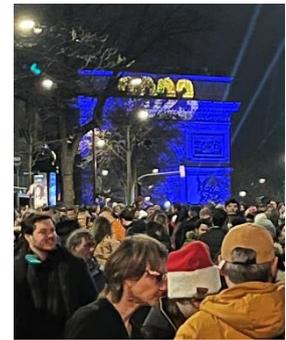
そして、パリはとても交通の便が良く、あらゆる国に向かう長距離電車が走っていて、ロンドン・スペイン・ドイツ・ベルギー・スイスなどに簡単に旅行ができます。これほどまでに手軽に他国へ移動できる国はフランスがヨーロッパで 1 番だと私は思っています。もちろん空港もヨーロッパで最大レベルなので空路もとても便利です。大学はパリ郊外にありますが、在来線で 1 時間ほどでパリの中心部に行くことができたため、授業が午前中で終わる日はそのまま電車ですぐにパリに出かけることができるのも最大のメリットでした。それでも 5 か月通い続けてもパリは回り切れないほど広がったです。



ゴッホ「夜のカフェテラス」
アルルにあるモデル地



オルセー美術館



凱旋門の年越しカウントダウン



オレンジリー美術館
モネ「睡蓮」



ルーヴル美術館



草間彌生コラボの
シャンゼリゼ通りに面したルイヴィトン

【言語】

フランスでは公用語はフランス語で、フランス人大学生のほとんどは問題なく英語を話せますが、駅やレストランやスーパーの人は英語が話せない人もかなり多いです。たとえ英語が話せる人でもフランス語でしか対応してくれないなど意地悪な場面も実際は多々あります。電車が急に止まるなど、緊急の時ほどアナウンスはフランス語でしか流してくれません。ただ、パリ郊外になるとだんだん穏やかになります。フランスで生活をすればフランス語へのある程度の耐性とかなりの根性がつくことは間違いありません。私は大学 1 年生から週に 2 回しか学んでいない程度の語学力しかありませんでしたが、この厳しいフランスで 5 か月生き延び、帰ってくることができました。あの環境を乗り越えたことは本当に自信になります。今はフランスの街中の標識やレストラン・買い物時に困ることはほとんどありません。フランス語で頑張らないといけなかった環境だったので、周りの国に旅行するときや現地での生活中に英語を目にすると、とても安心しました。留学前は英語に対してさえ気合を入れなければいけませんでした。留学中に自然と英語へのハードルが下がりました。だんだんフランス語にも慣れてくると、ドイツ語圏やスペイン語圏の場所に行く場合にまたそわそわしますが、ベ

ルギーやスイスなどフランス以外の国でもフランス語を目にすると、英語もフランス語も通じるのことに安心します。今でも、英語もフランス語も自分の目標にはほど遠い語学力しかありませんが、ハードルはかなり下がったと感じています。アフリカだけでなくヨーロッパでもフランス語が公用語の国はたくさんあり、フランス語を話せることはこんなにも生きる世界を広げてくれるのかと、旅行中にたくさん実感しました。私の拙いフランス語でさえも、レストランやお土産屋で「フランス語話せるのすごいね」とフランス人に褒めてもらった時は、本当に本当に嬉しかったです。英語の語学留学をしたい人にはフランスをはじめドイツやスペインなどはおすすめしませんが、諸外国語を学びたい人や興味ある人、特に希望の無い人には私はフランスをすごく良いと思います。

【最後に】

この留学は毎日が本当に新鮮で刺激的でした。街、食事、文化、人、どれをとっても日本では絶対に体験できない経験でした。次フランス人の友だちと再会する時まで、必ずフランス語を上達させようと思いました。今回の留学のおかげで、語学の勉強への意欲、異文化交流の経験を得ることができました。同時に自分の関心・研究分野に関する知識や興味も増え、それを卒業論文に活かしたいと考えています。幼い頃から夢であった留学を叶えることができ、今後の人生にとっても影響のある5か月間でした。



年に数回のみスーパー大潮時
モンサンミッシェル



フランスで有名なクリスマスマーケット
ストラスブール



南仏の観光地ニース



ジュネーヴ国際連合



ベルリンの壁



サグラダファミリア